

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																	
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 榎原 俊章	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																
工業	工業専門課程	情報スペシャリスト学科	平成16年文部科学省告示 第23号	無																
学科の目的	情報処理業界で活躍するために必要な実践的かつ専門的なシステム開発における各技術や知識と、企業や組織での業務知識を学びヒューマンスキルの高い上級システムエンジニアを育成する。																			
認定年月日	平成28年2月19日																			
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験															
3年	昼間	2760時間	1210時間	2731時間	799時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
60人	89人	0人	4人	1人	5人															
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はA、B、C、Dの4段階科目終了時に試験、レポート等で評価															
長期休み	■夏季休業日:8月6日～8月26日 ■冬季休業日:12月24日～翌年2月17日 ■春季休業日:3月4日～3月24日			卒業・進級条件	次の項目を全て充たすこと ・必修49科目、総時間2760時間を履修すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上 ・卒業基準検定に合格(情報処理技術者能力認定試験2級、C言語プログラミング能力認定試験2級、Java™ プログラミング能力認定試験2級のうちいずれか一つ合格)すること															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等			課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修  ■サークル活動: 有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 就職先: 株NTTデータ関西 株Minoriソリューションズ 株TOKAIコミュニケーションズ 株アイヌ 明治安田システム・テクノロジー株 株フリーダム 株トスコ 他 業界: ソフトウェア業界  ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。  ■卒業者数 26 人  ■就職希望者数 26 人  ■就職者数 26 人  ■就職率 : 100 %  ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %  ■その他			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)  ■主な学修成果(資格・検定等) ※3 <table border="1"><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>基本情報技術者試験</td><td>①</td><td>26人</td><td>23人</td></tr><tr><td>情報処理技術者能力認定試験2級</td><td>③</td><td>26人</td><td>24人</td></tr><tr><td>C言語プログラミング能力認定試験2級</td><td>③</td><td>26人</td><td>18人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	①	26人	23人	情報処理技術者能力認定試験2級	③	26人	24人	C言語プログラミング能力認定試験2級	③	26人	18人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																	
基本情報技術者試験	①	26人	23人																	
情報処理技術者能力認定試験2級	③	26人	24人																	
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	26人	18人																	
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成29年4月1日時点において、在学者79名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31時点において、在学者79名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由																			
	■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 納付対象・非納付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																			
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.oic-ok.ac.jp/course/medical.html">http://www.oic-ok.ac.jp/course/medical.html</a>																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員会を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

高度なIT技術者(ネットワーク技術者、情報セキュリティ技術者、データベース技術者)育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
榎原 俊章	専門学校 岡山情報ビジネス学院 学院長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
高岡 信吾	専門学校 岡山情報ビジネス学院 常務理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
中上 篤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務第2課 課長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
藤原 直樹	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報スペシャリスト学科 学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
新免 國夫	一般社団法人データ クレイドル 代表理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
三宅 一郎	株式会社システムエンタープライズ 代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
坂本 康久	システムプロダクト株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回(例年の開催時期は、9月、1月)

(開催日時)

第1回 平成29年9月7日 16:00～17:30

第2回 平成31年1月25日 16:00～17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

現場でも相手に納得させるプレゼンテーションが出来ることが求められており、卒業研究発表を見て、プレゼンテーションが上手い学科があり、説得力を訓練されている様子が見受けられたという意見から、今まで以上に、色々な場面で練習の機会を取り入れた授業を実施することを検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

システム業界で即戦力で活躍できる技術者を育成するために、システム設計に関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、システム業界でソフトウェア開発に関する業務コンサル、システム設計・開発・運用監視、Webコンテンツ作成を主要業務に携わっている技術力の高いシステムエンジニアとして活躍している方から、システム設計に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定し、講義していただく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

授業科目の担当教員と連携企業の講師がシステム設計書作成前に事前の打ち合わせを行い、演習期間中は、担当教員の指導のもと段階ごとにシステム設計書の作成を行い、月に一度、連携企業の講師の方に来校していただき、プレゼンテーション後に確認・指導・改善を行う。演習終了時には、連携企業の講師の方にグループ単位の評価をふまえ、担当教員が成績評価(4段階評価)、単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
応用システム開発	システムエンジニア・プログラマーとして即戦力となる人材を育成することを目的に学習。1年次に経済産業省 基本情報処理技術者試験取得を目指し学んだシステム開発の用語知識や理論だけでなく、演習を通じシステム設計のドキュメントを作成する力を身につける。卒業時にはシステムの企画・設計・プログラミングまで通じて行えることを目的とする。演習として数人のグループでシステムの企画、基本設計書～外部設計書の作成を行い、連携企業の講師の方によるシステム作成における留意点や作成上のポイント等の講義指導を受ける。	セリオ株式会社

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

システム業界で即戦力となる技術者育成のため、ソフトウェア開発企業を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはソフトウェア開発についての仕事全般が体験でき、システムエンジニア、プログラマとして活躍している方からシステム開発に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア実習Ⅰ	実社会で、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、1年次後期に企業で実習を行う。授業を通して学んできたことを、理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。実習内容は、基本的に受入企業様の指示に従い、担当者の方々の指導のもと、実習を行う。	システムプロダクト株式会社 セリオ株式会社 ピープルソフトウェア株式会社 株式会社ダイレクトウェイヴ サントクコンピュータサービス株式会社 等 全22社
キャリア実習Ⅱ	実社会で、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、2年次後期に企業で実習を行う。授業を通して学んできたことを、理論と実践の相互関係を理解し、応用的な知識・技術力を身につける。実習内容は、基本的に受入企業様の指示に従い、担当者の方々の指導のもと、実習を行う。	株式会社トスコ 株式会社リヨービシステムサービス アララ株式会社 株式会社ティファナ・ドットコム 株式会社ファインシード等 全14社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催:一般社団法人 全国専門学校教育研究会
- ・日程:平成29年8月21日(月)~22日(火)
- ・参加者:藤井 克俊
- ・研修名:情報処理及びゲーム系教員研修

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、検定試験の問題作成会社の方や現職のゲーム関係者などから検定試験の問題傾向やゲーム業界の現状等について学んだ。また、情報処理技術者試験の高合格率目標達成のための情報交換やプログラミング技術習得やスマートフォンアプリ開発などの情報交換、職業実践専門課程の申請・運用に関する情報交換も行った。

- ・主催:一般社団法人全国専門学校情報教育協会
- ・日程:平成30年2月8日(木)~9日(金)
- ・参加者:伊藤 宏一郎

・研修名:専修学校フォーラム2018「教育×AI」 AIは教育現場にどのような影響をもたらすのか

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、近年急速に発展している人工知能について、今後のAI教育の導入方法や、人工知能活用人材の育成法などについて学んだ。また、AIを活用したアプリケーション作成の授業事例やビッグデータ分析の授業事例などの情報交換、今後AIを中心として起こりうる社会構造の変化に対応できる人材像や人材を育成するためのカリキュラム作成の情報交換も行った。

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・主催:株式会社STC
- ・日程:平成29年12月7日(木) 9:30~15:30
- ・参加者:藤井 克俊
- ・研修名:就職指導研修

株式会社STCは企業の目的や課題、問題点にあわせて、意識、能力、行動の変革と組織のパフォーマンス向上を目的とした研修を行っている会社で、本校の就職指導研修を長年にわたり実施していただいている。主な研修内容としては、ビジネスマナー研修、クレーム対応研修、コミュニケーション研修、新入社員研修等が挙げられ、本校の研修も学生のビジネスマナー、就職活動指導の向上につながっている。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催:2018 岡山情報化セミナー実行委員会
- ・日程:平成30年11月21日(水)
- ・参加者:藤原 直樹
- ・研修名:2018 岡山情報化セミナー

岡山県内のITおよび製造関連企業が集まり、各種情報の収集や教育研修のために活動している団体が主催する研修会であり、岡山県内の情報化の取り組みと活用事例の講演会であり、その最新情報を学び教師のスキルの向上と岡山のIT業界の状況を把握し、学生の就職に向けて業界の動向を的確に伝えることを目的とした研修である。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

- ・主催:一般社団法人 全国専門学校教育研究会
- ・日程:平成31年2月21日(木)~2月22日(金)

・参加者:伊藤 宏一郎

・研修名:アドラー心理学に基づく学生指導とクラス運営

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修は、アドラー心理に基づく学生の指導、およびクラス運営のやり方について、教師の指導力のレベルアップを目的とする。

- ・主催:一般社団法人 全国専門学校教育研究会

・日程:平成31年3月13日(水)~15日(金)

・参加者:山本 隆之

・研修名:新任教員基礎研修

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修は全国専門学校研究会に所属している専門学校の新任教員研修である。学生とのコミュニケーションの取り方、授業の展開方法を学び、実践として模擬授業を行い評価、改善を行う研修である。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
宮崎 栄一	株式会社 創明コンサルティング・ブレイン 代表取締役	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
仲田 錠二	株式会社ユナイテッドサーブ 代表取締役	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	卒業生・企業等委員
松本 武司	有限会社シルク 代表取締役	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	PTA
河原 秀明	医療法人創和会 しげい病院 地域連携部 地域連携入退院支援・医療社会福祉課 課長	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
近藤 正晃	株式会社 ホテルグランヴィア岡山 総務部総務人事課 課長	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
岡崎 多美子	学校法人 朝日学園 朝日塾幼稚園園長	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
磯谷 賢二	リコージャパン株式会社 中国事業本部岡山支社 アシスタントマネージャー	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	卒業生・企業等委員
片山 雅文	株式会社 コーセイカン 制作チーム部長	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
石橋 史恵	ウェブクリエイティブ株式会社 代表取締役	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
高松 聖	株式会社 スカイリンク 岡山制作部長	平成29年4月1日~平成31年3月31日(2年)	企業等委員
中國 薫	岡山県商工会議所連合会 おかやま若者就職支援センター 所長	平成30年4月1日~平成31年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL:<http://www.oic-ok.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対処を行い、説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト・プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2)各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3)教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎・施設紹介、学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7)学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.oic-ok.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 1年生																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			ハードウェア概論	ハードウェアに関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。			1前期	60	4	○	△		○	○		
○			ソフトウェア概論	ソフトウェアに関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。			1前期	60	4	○	△		○	○		
○			アルゴリズム概論Ⅰ	プログラムの処理手順の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの学習。			1前期	45	3	○	△		○	○		
○			アルゴリズム概論Ⅱ	疑似言語を含むプログラムの処理手順の学習。経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの学習。			1前期	45	3	○	△		○	○		
○			システム設計概論	システム開発手順に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。			1前期	30	2	○	△		○	○		
○			C言語Ⅰ	C言語の知識学習 (基本文法から、関数)			1前期	30	2	○	△		○	○		
○			C言語実習Ⅰ	C言語プログラミング演習 (基本文法から、関数)			1前期	60	2	△		○	○	○		
○			C言語Ⅱ	C言語の知識学習 (ポインタから構造体)			1後期	30	2	○	△		○	○		
○			C言語実習Ⅱ	C言語プログラミング演習 (ポインタから構造体)			1後期	43	1	△		○	○	○		
合計				科目			単位時間(時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 1年生													
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア実習I	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	1後期	80	2		○	○		○	
○	○		情報処理技術者I(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	132	4	△	○	○	○		
○	○		情報処理技術者I(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	132	4	△	○	○	○		
○	○		情報処理技術者I(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	132	4	△	○	○	○		
○	○		情報処理技術者I(ネットワーク)	経済産業省 ネットワーク技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	132	4	△	○	○	○		
合計			20科目			870単位時間( 43単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任			
○			J a v a I	Javaプログラミング、オブジェクト指向の基礎知識の学習と実習を行う。	2 前期	90	3	○	△		○	○			
○			J a v a II	Javaプログラミング、APIの利用方法の学習と実習を行う。	2 後期	45	1	○	△		○	○			
○			U M L	クラス図やシーケンス図などの、基本的なUMLの記述方法について学ぶ。	2 前期	30	2	○			○	○			
○			W e b サイト制作 II	ブラウザでのオブジェクトの操作など、javascriptの基礎知識の学習とプログラミング実習。	2 前期	90	3	△		○	○	○			
○			S Q L	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・SQLなどの基礎知識を学ぶ。	2 前期	30	2	○	△		○	○			
○			L i n u x	インターネットサーバとして、企業などで多く採用されているオペレーティングシステムであるLinuxの基礎を学習する。	2 前期	30	1	△		○	○	○			
○			通信ネットワーク・セキュリティ II	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学ぶ。	2 前期	60	2	○			○	○			
○			応用システム開発	6人前後のグループでシステムの企画、設計を行う。（外部設計まで）	2 後期	45	3	○	△		○		○	○	
○			通信ネットワーク・セキュリティ III	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学ぶ。	2 後期	31	2	○			○	○			
合計			科目			単位時間( 時間)			授業期間等						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1学年の学期区分		2期	
1学期の授業期間		15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 2年生																
分類			授業科目名	授業科目概要				配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			MySQL	データベース、テーブル、ユーザー、トリガなどの作成、データ格納やデータ抽出などの方法を学ぶ。	2後期	31	2	○	△		○	○				
○			スマホアプリ開発	monacaを用いたスマホアプリ開発を学習する。	2後期	41	1	○		△	○	○				
○			英会話 I	グローバル社会を見据え、業務で必要な英語での基礎的な会話法を学習する。	2後期	18	1	○			○	○				
○			キャリア実習 II	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2後期	80	2			○	○				○	
○			ロジカルシンキング	グループワークを通じて、協調性、問題解決能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△		○	○				
○			ビジネス実務 II	一般常識や適性試験対策学習を継続しながら、エントリーシートや履歴書を完成させ、就職活動の準備を整える。	2通年	60	4	○			○	○				
○	○		情報処理技術者 II (基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	132	4	△	○		○	○				
○	○		情報処理技術者 II (応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	132	4	△	○		○	○				
○	○		情報処理技術者 II (情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	132	4	△	○		○	○				
合計			科目				単位時間( 時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 2年生																
分類			授業科目名	授業科目概要				配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
	○		情報処理技術者Ⅱ(データベース)	経済産業省 データベース技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	132	4	△	○		○	○				
	○		情報処理技術者Ⅲ(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	132	4	△	○		○	○				
	○		情報処理技術者Ⅲ(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	132	4	△	○		○	○				
	○		情報処理技術者Ⅲ(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	132	4	△	○		○	○				
	○		情報処理技術者Ⅲ(ネットワーク)	経済産業省 ネットワーク技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	132	4	△	○		○	○				
合計			17科目				960時間( 38単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 3年生																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			PHP	サーバーサイド・スクリプト言語であるPHPを使って、Webサーバ上で動作し、要求されるたびにスクリプトを実行するプログラミングを学ぶ。	3前期	53	3	○	△		○	○				
○			MySQL	データベース、テーブル、ユーザー、トリガなどの作成、データ格納やデータ抽出などの方法を学ぶ。	3前期	52	3	○	△		○	○				
○			システム開発実習	チームを組んで自分たちで考案した小規模なシステムを構築する。システム企画から、要件定義、基本設計と詳細設計から製造、テスト、リリースを行う。	3前期	105	3	△		○	○	○				
○			JSP/サーブレットⅡ	JSPとサーブレット利用方法の学習とプログラミング実習。	3前期	75	2	○		△	○	○				
○			プロジェクトマネジメント(PMBOK)	ITエンジニアが知るべきプロジェクトマネジメントの知識やスキルを学ぶ。	3前期	30	2	○			○	○				
○			親学	親としてすべきことを学び、さらに入れどしての成長を目指し、人間力を高めるライフデザインを学ぶ。	3前期	15	1	○	△		○	○				
○			英会話Ⅱ	日常英会話ができるように声に出しながら、表現できるように学習する。	3前期	30	2	○	△		○	○				
○			卒業研究Ⅰ	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する。企画から要件定義、基本設計を行う。	3後期	112	3	△		○	○	○				
○			卒業研究Ⅱ	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する。詳細設計から製造、テスト、リリースを行う。	3後期	126	4	△		○	○	○				
合計			科目			単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 3年生																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			ビジネス実務Ⅲ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを行う。	3 通年	68	4	○	△	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者IV(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者IV(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者IV(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者IV(データベース)	経済産業省 データベース技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者V(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者V(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者V(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
	○		情報処理技術者V(ネットワーク)	経済産業省 ネットワーク技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	132	4	△	○	○	○	○	○	○	○	
合計				12科目	930単位時間(35単位)											
				総科目	64科目 総時間 4740時間											
卒業要件及び履修方法												授業期間等				
次の項目を全て充たすこと												1学年の学期区分	2期			
・必修49科目、総時間2760時間を履修すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上 ・卒業基準検定を合格(情報処理技術者能力認定試験2級、C言語プログラミング能力認定試験2級、Java™ プログラミング能力認定試験2級のうちいずれか一つ)すること												1学期の授業期間	15週			

### (留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 平成30年度 1年生													
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任	
○			ロボット制御	多彩なパーツとセンサーを用いて組み立てるレゴ®マインドストームを使用し、組み込み技術の基礎を学習することで、問題解決力と論理的思考力を育成する。			1後期	16	1	○ △	○	○	
○			通信ネットワーク・セキュリティ I	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学ぶ。			1後期	15	1	○	○	○	
○			Webサイト制作 I	HTML5、CSSを使用してWebページの開発を学ぶ。			1後期	40	1	△	○ ○	○	
○			ビジネスアプリケーション実習	Excelの基本操作から関数の使い方を学ぶ。			1後期	33	1	△	○ ○	○	
○			データベース I	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・SQLなどの基礎知識を学ぶ。			1後期	30	2	△ ○	○	○	
○			Linux	インターネットサーバとして、企業などで多く採用されているオペレーティングシステムであるLinuxの基礎を学習する。			1後期	30	2	△ ○	○	○	
○			ペン字	硬筆検定3級合格レベルの演習 手書き用履歴書作成のため。			1前期	15	1	○	○ ○	○	
○			ビジネス実務 I	新入社員として必要なマナーの学習。 就職活動における立居振舞、面接指導。			1通年	60	4	○ △	○ ○	○	
○			ロジカルシンキング	自分の伝えたいことを相手にうまく伝えられるように、論理的な思考と表現力を身につける。			1後期	16	1	△ ○	○ ○	○	
合計				科目				単位時間( 時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。